平成29年度　奈良県立奈良高等学校　学校評価総括表

学　校　運　営　計　画		総合評価
教　育　目　標	本校の教育の目標は、日本国憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本理念に基づき、人間尊重を基盤として、一人一人の人間を大切にし、その人がもっている能力、適性を最大限に伸ばし、未来の社会に期待される人間を育成することにある。そのために、豊かな人間性をもち、絶えず知性を磨き、新しい文化の創造に努め、正しい価値観と倫理観をもって自主的な判断と行動のできる人間の育成を図る。	B
教　育　方　針	天平文化を象徴する校章『宝相華』を体し、新しい文化の創造に励み、民主的な社会の形成に努めるたくましい人間の育成を期し、本校教育は次の方針に基づいて推進する。 1　志操と思想を研き、創造的な知性と技能を育て、豊かな個性の伸張を図る。 2　真実の自由と責任を自覚するとともに、敬愛と信頼に満ちた人間関係を醸成する。 3　積極的に文化・体育活動に参加し、明るく豊かで活力のある生活態度を養う。 4　人間尊重の精神を基盤として、人間としての在り方、生き方を自覚し、自らの行動を律する主体性を育てる。	

昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標
生徒の学習意欲の向上、学習習慣の定着に成果をあげ、進路実績も一定の成果をあげた。 しかし、学習に主体的に取り組む姿勢には、まだ課題が残る。将来のキャリアを視野に入れた指導が、継続的に必要である。 また、授業改善のため、より質の高い授業を実践するための研究が大切である。 部活動や各種コンクールに真摯に取り組み、成果をあげた。今後も、学習との両立を図るため、バランスのとれた生活時間の配分が必要である。 校内での挨拶は定着しつつある。その一方で、携帯電話の使用や通学路でのマナーなど、社会での規範意識や他者とのコミュニケーション能力は、まだ十分とはいえない。今後も取組が必要である。 部活動中の熱中症等への予防に向けた取組を継続していく必要がある。	○　生徒が主体的に物事を考え、判断し、行動しようとする姿勢を養う。 ○　生徒の確かな学力と、社会の一員としての豊かな知性・人間性を育む。 ○　より質の高い授業を実践するため、授業改善に取り組む。 ○　ＳＳＨ再指定において設定した新たな研究開発課題に向けた取組を推進する。 ○　生命を大切にし、常に安全確保に努めるとともに、健康を保持増進する能力や態度を養う。	◇　本校独自の単位制を充実させるとともに、個々の授業改善に取り組む。 ◇　計画的、組織的な進路指導を展開するとともに、将来の大学入試改革に備えた検討を始める。 ◇　主体的な学習を促すためのガイダンス機能を更に充実させる。 ◇　新規ＳＳＨ事業を企画・運営し、関連機関と連携しながら事業を推進するとともに、探究活動や授業改善に取り組む。 ◇　社会のルールやマナー等規範意識の醸成に努める。 ◇　部活動や各種コンクールへの参加を支援する。 ◇　読書の啓発に努めるとともに、文化的な行事の充実を図る。 ◇　学校安全教育、防災教育に積極的に取り組む。 ◇　ボランティア活動を推進し、地域で活動する機会を設ける。 ◇　健康面、精神面での相談体制を充実させる。 ◇　本校の教育活動についての情報を迅速かつ適切に発信する。 ◇　熱中症予防に向けた具体的計画を作成し、その取組を展開する。 ◇　国際交流プロジェクトチームにおいて、国際交流・留学を推進する。 ◇　ＩＣＴ機器の整備及び ICT 機器を活用した授業づくりを推進する。

評価項目		具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
教務部	教務課	新規ＳＳＨ研究開発のなかで、本校の特色を生かした教育課程や学校設定科目が効果的に実践していけるような科目選択・講座編成を構築する。	研究開発部と連携をとりながら、教育課程委員会及びＳＳＨ推進委員会等を通じて、各教科の意見を出し合い、本校の教育課程やＳＳＨ指定研究の基本方針・内容についての共通理解を図った上で、それぞれの学校設定科目の運用・実践方法を確立する。	B	B	４期目のＳＳＨ指定研究は、科目選択も含めて、順調に進んでいるが、新テストの導入準備も絡んで、生徒の探究活動・課題解決学習の推進を様々な観点からアプローチしていく必要がある。	ＡＬ型授業を一層推進するためには、課題となっているルーブリックを教科内でより具体的・実践的なものにする。また、英語の４技能向上や主体的・対話的な授業を助ける手だてとしてのＩＣＴ機器の活用を積極的に導入する。	新しい大学入試改革や新学習指導要領を見据えた教育課程の編成を更に進めていく必要がある。 ルーブリックに関する研修を計画するなど、評価方法も含めた学習指導対策推進を効果的に行ってほしい。 入試の多様化により、新３年生の科目選択も多様化している。観点別評価を意識するとともに、ＩＣＴ機器を積極的に取り入れ、生徒の主体的な学びに向けた更なる実践に期待する。
		生徒の主体的な学びがより一層進展していく指導方法の工夫と、観点別評価の実践を行う。	教科の枠を越えた授業交流を実施し、互いの授業を観察し研究する。また、各教科で研究課題を設定し、それに基づいた公開授業を行い、教員それぞれの授業力の向上を図るとともに、評価についての具体的な方法を実践する。	B				

評価項目		具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
キャリア・マネジメント部	キャリア・リサーチ課	大学入試改革に対応する。	大学入試への英語外部検定の本格活用に備え、英語と連携して情報収集を行い、平素の学習活動への対策導入を検討する。 各教科に依頼し、入試問題研究を行う。	A	A	B	３年の教員向け進路検討会の実施、２年生徒向けの「受験勉強のStart」発刊ができたことは大きな成果であった。大学入試改革、評価方法の改革、指導要領・調査書の改訂と大きな変化が急速に進む。取り残されないように常に全教員に情報を伝達していきたい。	本校で職員研修を実施するのも限界がある。各予備校・企業が大学入試改革の研究会を実施している。できるだけ多くの教員が参加できるよう情報を提供していきたい。また、生徒が、教育の方法自体が変わってきている大学の授業を生で体験してもらえるよう、関係各機関と連携して、京大・阪大など本校生徒が目指す大学の体験ツアーを企画・実施したい。	入試改革のポイントとなる英語外部試験の導入を意識した研修を効果的に行っている。 推薦入試の多様化や部活動との関連など多くの情報を収集し、積極的に情報発信されることを期待する。 外部における研修や本校に派遣される講師による研修についても、一人一人の教員が積極的な姿勢で参加することを望む。
		各調査や模試より課題を見つけ、解決の方策を練る。	各模試結果の分析を行い、キャリア・サポート課、学年と連携し研修を行う。 本人が希望する進路の実現に向けて、キャリア・サポート課や学年と連携し進路検討会を行う。	B					
	キャリア・サポート課	生徒に対してのサポート機能を高める。	随時面談が行えるよう、キャリアルーム（進路室）を整備し、進路情報・資料の充実を図る。また、自習室の環境を整備し、機能を充実させる。 学年・教務部と連携し、生徒の適切な類型・科目選択を促す。	A	B				
		教員に対して、進路指導をサポートする。	全ての教員が同じ時期に同じ指導ができるよう、奈高進路シラバス（仮称）を作成する	B					

評価項目		具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
学校生活部	生徒指導課	基本的な生活習慣の確立を図り、規範意識を高める。	遅刻防止に向けた指導を強化し、年間遅刻数を２割減少させる。 ＨＲ運営委員による「朝のあいさつ運動」などを通して、明るく積極的な学校の雰囲気づくりを進める。	C	B	B	登校時、遅れて来る生徒への声かけを継続した。また、学期で５回、10 回遅刻をした生徒への指導を行ってきたが、顕著な遅刻の減少に結びつかなかった。 外部からの苦情に生徒の自転車運転時のマナー不足があった。 委員会改革を目標として、各種委員会の活動の活性化につながった。スマホリデーやナジカ文庫など昨年からの取組を継続、発展させた。課題は、地域と連携したボランティア活動が実践できなかったことである。 人権に関する外部の研修会への参加人数が他校に比べて少なかった。	遅刻減少策として始業５分前のチャイムの導入や校外へのチャイムの音量を上げる。 外部からの苦情の大部分を占める登下校のマナーに関して、生徒に周知徹底していく。 スマホリデーをきっかけとして、生徒側から規範意識を高める活動を立ち上げていけるようにバックアップする。生徒会担当者会議などに積極的に参加して他校と情報交換をして、地域と連携したボランティア活動を模索する。 職員への広報活動の機会を増やしていく。	遅刻防止に向けて、更なる対策を考え、自覚を促す指導を継続してほしい。 登下校のマナーが少しずつ改善しているが、まだ学校近辺からの苦情がある。マナー向上に向けた意識を一層高める必要がある。 総務委員会が中心となり、各行事終了後のアンケート結果を分析し、新しいものを創り上げている。 地域との連携が重視される中、ボランティア活動についても、周辺地域から更なる評価を受けるよう、積極的な取組を期待する。 人権学習については、各ホームルームにおいて、生徒の実態に合うよう担任を中心に工夫された中身が多い。 他校の実態や取組を知り、更によりよい人権学習に繋げるために、研修会への積極的な参加が一層進むことを期待する。
		問題行動に対する予防・対応・指導を適切に行う。	１年生を対象として「交通安全教室」「スマホ・ケータイ安全教室」及び「薬物乱用防止教室」等を開催し、現在及び将来にわたって安全な生活を送るための知識を学ばせる。	B					
	生徒会指導課	自主創造の精神に基づき、生徒一人一人が学校活動の主役となり、生き生きとした生活が送れるようにする。	生徒会（総務委員会）と各種委員会との連携を密にし、各行事における役割を明確にするとともに、活動の活性化を図る。 学校生活における規範意識を高めるための活動を模索し、実行に移す。 活発な部活動を展開し、健康で心豊かな生徒の育成を図る。	A	B				
		地域や他校と連携したボランティア活動の充実を図る。	昨年度に続き、近隣の学校や周辺地域と連携したボランティア活動を計画し、発展させる。	B					
	人権教育課	生徒の実態の把握に努めるとともに、グループワークなどを通じて生徒の主体的な活動を促す。	生徒が作成した人権啓発標語や人権作文を人権ＨＲにおいて効果的に活用し、アクティブラーニングの手法を取り入れる。	A	B				
		教職員・保護者に研修会、学習会等への参加を呼びかける。	人権教育に関する研修会や学習会（校内・校外）に多くの教職員・保護者が参加できるように、情報の収集・伝達に努める。	B					

評価項目		具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
文化 広報部	総務 情報課	育友会活動と同窓会活動の活発化に努める。	学校内外の関係部署との連携を密にし、保護者等への情報発信をＨＰ等を用いて更に強化する。	A	A	A	育友会・同窓会の各行事を円滑に開催運営できた。 ＨＰ等を用いた学校内外への情報発信に進歩がみられた。 国会図書館司書・被爆者の方による講座を実施した。ビブリオサロンも、１月までで６回開催できた。	育友会・同窓会の各行事に斬新な視点を入れていくことが今後の課題である。 機材は充実してきたので、授業の情報化など内容の改善に取り組む必要がある。 講座・ビブリオサロンとも、意義と内容を多くの生徒たちに知ってもらうための宣伝を工夫する必要がある。	学校運営に関し、育友会・同窓会と学校が連携し、協力することで様々な視点を取り入れることも必要である。また、タブレット端末等をはじめとするＩＣＴ機器の充実と活用を一層図る必要がある。 ビブリオバトルやビブリオサロン、読書会などの取組は、生徒の自主的な活動と結び付いて、順調に運営されている。広報活動を広げることで、参加者の数が更に増えていくことを期待する。
		教育の情報化を推進する。	多目的室のタブレット端末の利用管理を行い、多目的室をアクティブラーニングルームとして教育の情報化に供する。	B					
	文化 図書課	知的好奇心を喚起するような文化講座を計画し実施する。	外部講師を招くことも視野に入れ、他分野横断、学際的な講座を２回以上実施する。	B	A				
		生徒たちが本と読書について自由に語り合えるような「ビブリオサロン」を実施する。	月に１回ほど有志が相集い、本とその内容について自由に討議する場を設ける。文化講座・探究系授業・「アスペン古典セミナー」・「ゲーテの会」などとも連関させながら、自由な対話の場を作り上げる。	A					

評価項目		具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
保健 安全部	保健 体育課	生徒が健康診断や身体測定、体力テスト等の結果を踏まえて、自主的に健康を保持増進できるよう指導を充実させる。 引き続き熱中症０を達成する。	健康診断の事後指導を充実させ、疾病や発育・発達に関する課題の早期発見や対応を行う。特に、経過観察が必要な生徒の体重測定や個別指導を定期的に行うとともに教育相談委員会とも連携し、個人カードを活用しながら心身に配慮を要する生徒をより注意深く見守る。また、「保健だより」や掲示物等の内容を工夫する。 熱中症予防計画を見直しながら学校全体で取組を進めていく。	A	B	B	健康診断の結果を踏まえた事後指導や経過観察が必要な生徒への支援・指導は概ね行えた。 熱中症０を達成できた。 生徒が自分の体力や運動能力、適性を把握した上で運動を選択して行えるよう授業を工夫している。 ＳＣ２名体制になり、教育相談の時間も増えた。需要はますます増えているのでよかった。 事例検討会は、わかりやすく、実際の生徒にフィードバックできることも多かった。 トイレ清掃がしやすいように水道ホースのコネクターとＳ字フックの設置、用具入れの整理、便器周りの尿石除去等行うことができた。 総務委員、生活委員と連携しながら校舎外壁のチョーク跡を消すことができた。	情報交換を密にし、より細かく生徒の心身に関する情報を把握しながら課題の超早期発見や個別指導・支援に努める。 各生徒の運動能力や経験、価値観等を把握・分析した上で、適切な指導・支援が行えるシステムを充実させる。 ＳＣについて生徒は放課後の利用に集中する。その他の時間は教員の利用を促す。 １年生が２学期以降にしんどくなることが多かったので、予防的対策を取り入れる。 継続的にトイレ清掃の充実を図るため、監督指導がしやすいような清掃分担の検討を行う。 校舎内外には修繕を必要とする箇所が多数残っており、優先順位を決めて取りかかる必要がある。	学校での健診結果を受けて、治療を要する生徒に通知をした結果、ほとんどの生徒が受診し治療を行った。家庭と連携する中で、生徒がもつアレルギー体質等のフォローも継続していく必要がある。 熱中症予防は、今後もゼロを目標にした細やかな指導体制を継続させてほしい。 ＳＣ２名体制になり、教育相談の時間も増えたが、担任を中心としてＳＣと連携し、生徒をしっかりとサポートしていくことが今後も重要だと考える。 教育相談委員会を年に４回開催しているが、情報の更なる共有や支援体制の強化が必要である。 生徒用トイレなどの清掃を徹底するため、道具の整備を行った。日頃の清掃活動をきちんと続けることで、衛生への意識付けが更に定着していくことを期待する。
		全体及び個々の生徒について体力的な課題を明確にし、その克服に向けて自主的に体力トレーニングを行えるよう指導する。	教科「体育」の授業を中心に教科「保健」の内容とも関連付けながら体力向上の取組を進める。特に、運動が苦手で嫌いな生徒に対する指導を工夫する。	B					
	教育 相談課	サポート活動を進める	支援の必要な生徒や不登校傾向の生徒に対するサポートが適切に行えるように、担任、学年主任と協力、連携する。	A	B				
		研修活動を充実させる	教育相談アドバイザーやスクールカウンセラー（ＳＣ）による事例検討会などを通して、教員の教育相談活動のスキルアップを図る。	B					
	環境 整備課	校舎内外の汚れや破損箇所の清掃と修繕に努め、物を大切にする心を養う。	トイレの清掃活動を充実させ、総務委員・生活委員・家庭クラブと連携をとりながら、共に清掃・修繕活動ができるような計画を立てる。	A	B				
		ゴミの分別に関して理解を深め、環境問題に対する意識を高める。	ゴミ置き場案内図を作成・配布し、学級や部活動などで生徒達に周知徹底できるよう啓発を続ける。	B					

評価項目		具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
研究 開発部	ＳＳＨ 事業 推進課	ＳＳＨの新しい研究開発課題に向けて、多角的・複合的な視点で事象をとらえ、主体的かつ徹底的に課題と向き合い考え抜きながら、探究・創造する力を育成する。	３年間を通して主体的に探究･創造する力を系統的に育む教育課程の研究開発として、ＳＳＰ基礎科目の見直しと教科の枠にとらわれない新たな学校設定科目（ＳＳＰ探究、総合探究、理数探究、Explore Subjects）の研究開発に取り組む。	B	B	B	ＳＳＨ事業については、ＳＳＰ基礎の見直しや来年度実施の総合探究の具体的な計画を進めることができた。しかし、再来年度実施する理数探究等については更なる検討が必要である。また、海外研修では報告会を開催することで成果の普及に努めた。重点枠事業では「生徒実行委員会」の活動が不十分であった。 国際交流推進については、台湾及びオーストラリアから延べ３回にわたり訪問団を受け入れ、交流をすることができた。また、短期語学研修については、３月に実施する予定である。	ＳＳＰ事業における学校設定科目については、より具体的な実施計画と実施後の検証・評価方法の確立がよりよい教育課程の研究開発につながると思われる。 重点枠事業については、参加生徒の主体的な活動を促す「生徒実行委員会」をより強化する必要がある。 グローバル人材育成の観点から、短期語学研修の目的を整理し、プログラムの内容について再検討する必要がある。	ＳＳＨ事業の第４期目を受けて、計画どおりに研究開発が一層進むことを期待する。 今後も、多くの生徒がグローバルリーダーを目指せるよう、台湾やオーストラリアをはじめ、様々な国に対して国際交流の取組を広げてほしい。 また、ＳＳＰ事業における学校設定科目について、更に研究開発を進めてほしい。 生徒の主体性を促す「生徒実行委員会」が更に活性化するよう、生徒の主体的な取組の必要性について、連携校の先生方が再認識する必要がある。
			国際社会の中で活躍するために必要な資質･能力を育成する教育プログラムの研究開発として、科学英語講座やシンガポール海外研修等の内容の充実を図る。	B					
		重点枠事業として、県全体の理数系探究活動の活性化を図るとともに、地域や学校に貢献し、活躍できる人材を育成する。	連携校のネットワークを充実させ、各事業をより発展させていく。さらに、成果の普及と地域への貢献を目指した地域人材育成のため、連携校生徒による「生徒実行委員会」の活動をより充実する。	B					
	研究 企画課	仲間と協働し、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力とともに、新しい価値を創造する能力を育成する。	ＳＳＨ事業推進課と連携し、探究科目（「ＳＳＰ基礎」「ＳＳＰ発展Ａ･Ｂ」「ＳＳＰ探究Ａ･Ｂ」「総合探究」等）及びExplore Subjectsのシラバス作成に向けて、内容の研究を推進する。	B	B				
			主体的･対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善の推進、及びＩＣＴ活用した授業モデルの紹介及び研修を実施する。また、ＳＳＨ事業の一環として実施される、中学生を対象とした参加型の公開講座を企画運営するとともに広報し、多数の中学生の参加を募る。	B					
		広い視野に立ち、異なる文化、価値観を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と積極性及び協調性を有するグローバル人材を育成する。	海外交流団体を招聘し、本校生徒との交流を図る。	A					
			短期留学プログラムを企画し、長期休業中に実施する。	A					

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
第１学年	高校生としての自覚を持たせるとともに、基本的な生活習慣を確立させる。	生徒一人一人に、高校生として自立した行動をとるように意識させる。	B	B	B	学年全体が共通認識をもって、生徒の生活や進路についての指導にあたることができた。会議での情報共有により、生徒への一貫した指導ができた。 生徒は、１学期は遅刻･欠席も極めて少なく、学習への取組方も熱心であったが、学校生活に慣れるにつれ、学習面・生活面ともに、一部に中だるみの様相がみえ始めている。新学年を気持ちよく迎えられるよう、１年のまとめと振り返りを丁寧に行いたい。	学年全体で生徒を育てる意識をもち、一人一人の生徒に様々な立場から指導にあたる。 生徒には、不注意による遅刻を減らすよう促し、授業を大切にする姿勢を築かせるとともに、中間学年として部活動や学校行事の中心となっていく自覚をもたせ、集中力がありかつ柔軟性と臨機応変さのある集団にしていく。	遅刻や欠席をなくすことは、基本的な生活習慣の根幹であり、学習の成果とも関連している。よって、早期に原因を探り、ＳＣなどとも連携を取りながら個別に面談をするなど、日頃からのケアをお願いしたい。
		理由のない遅刻や欠席をなくし、基本的生活習慣を確立することが充実した高校生活につながることを理解させる。	B					
		自分から進んで挨拶を行うことを習慣付けさせることで、明るく礼儀正しい生活習慣を身に付けさせるとともに、落ち着いた雰囲気の学習環境を作らせる。	A					
		自らの役割を自覚し、果たしていく中で、集団の一人として、責任をもって行動できる力量を身に付けさせる。	B					
	将来についての目標を設定し、その実現のために、授業を大切にさせることで、学力の一層の向上を目指す。	予習・復習の習慣を身に付けさせることで、授業を大切にし、効果的な学習活動ができるようにさせる。	B	B				
		定期考査や模擬試験等の積極的活用を通して学習方法を点検させ、知識の定着を図る。	B					
	生徒の学校生活をより充実したものにするために、各家庭との協力関係を構築する。	懇談等の機会を活用し、日頃の生徒の様子についての情報を保護者と共有する。また、生徒の様子の変化に気づいた場合は、早い段階で保護者と連絡を取り合いながら、適切な指導を行うように努める。	A	A				
	学年全体として意思疎通を図り、まとまりのある集団を形成する。	学年会議だけでなく、日頃からお互いに報告・相談・連絡を密にする。また、教科、分掌、学校全体の組織とも連携し、情報を共有する。	A	A				

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
第２学年	自分の将来に対する目標をより具体的に設定させ、授業等を通して進路実現に向けた確かな学力を身に付けさせる。	予習・復習に時間を割き、授業を大切にする態度を身に付けさせる。定期考査や模擬試験の見直しを通して自らの学習方法を点検させ、学力の定着を図らせる。	B	B	B	部活動や学校行事の中核として、積極的・主体的な活動をすることができた。学習面については、意識が高まってきてはいるが、基礎力が不足している生徒が多いことが課題として残る。 生活面では遅刻が多い。学年団としては教員が連携しながら情報の共有に努めることができた。保護者との連携も、担任を中心にきめ細やかな対応ができた。	３学期の整理講座･クロワッサンスには多くの生徒が参加しており、生徒自身も学習面についての課題意識をもっていると思われるので、生徒が希望する進路に進んでいけるよう､適切なアドバイスと支援をしていきたい。 生活面においては､遅刻指導を徹底しなければならない｡最終学年に向けて、学習面・生活面とも意識の高い集団となるよう､粘り強く指導していきたい。	中堅学年として３学期に入り、学習に対する課題意識が身に付いてきたが、それを新学年に向けて持続させるように励ましてもらいたい。 様々な面で悩みを抱える生徒に対して、教員間の情報の共有を図りながら担任を中心としたきめ細かい対応の成果が見られるので、ＳＣやＳＷとの連携を継続した支援体制を期待する。
		進路指導において、教員が研修の機会をもち、知識や情報を得た上でホームルームだけでなく学校生活の様々な場面で生徒に適切なアドバイスを与える。	A					
	中堅学年として活動することで、充実した学校生活を送らせる。	基本的生活習慣を確立させ、理由のない遅刻・欠席をなくす。	B	B				
		学校行事、生徒会活動、部活動において、中心となって活動できるように促す。	A					
	保護者との連携を図り、生徒の悩みや問題行動を早期に察知し、解消・改善に向けて努力する。	懇談等の機会を活用し、日頃の生徒の様子について保護者と情報を共有する。また、生徒の様子の変化に気づいた場合は、早い段階で保護者と連絡を取り合いながら、適切な指導を行うように努める。	A	A				
	学年全体として意思疎通を図り、まとまりのある集団を形成する。	学年会議だけでなく、日頃からお互いに報告・相談・連絡を密にする。また、教科、分掌学校全体の組織とも連携し、情報を共有する。	A	A				

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
第３学年	最終学年として充実した高校生活を送らせる。	基本的生活習慣を確立させ、理由のない遅刻・欠席をなくす。学校行事にも積極的に取り組ませる。部活動についても、悔いの残らないよう最後までやり遂げさせる。	B	B	部活動や学校行事にも積極的に取り組み､その後は学習から受験へとうまく移行できたが､学習面での基礎力の不足など､課題も残った。 保護者との連携に関しては､担任を中心にきめの細やかな対応ができた。	生活面においては､学校生活のあらゆる場面で高校生としての自覚がもてるように指導する。 学習面においては､しっかりと基礎･基本の大切さを認識させる｡その上に立って考査や模試等の細かなアドバイスを与え､受験指導につなげるべきである。	学習における基礎・基本は、日頃の授業での学習活動において、具体的な中身を提示することで身に付く。３年間の学習や活動の成果が、達成されることを期待する。
	進路実現に向けて、主体的に取り組ませる。	受験に向けての意識をしっかりと持たせる。予習・復習を通して基礎･基本を徹底させ､応用力の礎を築かせる。他方、模試を十分に活用させる。	B				
	保護者との連携を図り、信頼関係を構築する。	日頃の生徒の様子についての情報を保護者と共有する。変化に気づいた場合は、早い段階で保護者と連絡を取り合いながら、適切に対処する。	A				